

広島県の新型コロナウイルス感染症の状況に対する評価

- 広島県における感染者数は、現時点で延べ165人となっている。

疫学的状況として

- ・新規の感染者が11日連続で確認されていない。
- ・感染経路が不明な感染者が感染者に占める割合は約15%と低い。
- ・患者クラスターについて、全体像が把握できている状態である。

医療状況として

- ・感染者入院病床の空床率が約91%と余裕がある。
- ・軽症者向け療養施設が確保されており、空床率も約92%である。
- ・直近一週間の検査件数が1日平均88件と検査能力の50%以下である。
- ・PCR検査体制や医療機器の拡充整備が図られてきている。

といった状況にあり、今後、新たに感染者が発生した場合でも、直ちに医療状況等がひっ迫する恐れは少ないと考えられる。

- また、国の緊急事態宣言の対象区域からは解除された一方で、県民及び事業者に対する制限を一度に緩和することは感染の爆発的拡大を招くおそれがあることから、県として引き続き、県民や事業者が理解しやすい方針や資料を示しつつ、県民の持続可能な努力を要請する必要がある。
- 5月3日の専門員会議でも示したようにゴールデンウィークの影響については、連休終了後、2週間を目途に評価を行う必要がある。それまでは、レベル2とし、ゴールデンウィーク終了後2週間が経過する5月20日頃の本県の状況が、国が「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」で緊急事態措置の解除の判断の目安として示した直近1週間の10万人当たりの累積報告数が0.5人以下であること等を満たしている場合は、レベル1と判断してよいと考えられる。
- 今後は、医療提供体制の拡充を図るとともに、これまで分析してきたデータに基づく継続した評価に加え、国が昨日示した直近の新規感染者数や倍加時間、感染経路不明な症例の割合等を踏まえて、疫学的状況、医療状況についての総合的な判断を行い、再度の感染拡大局面が到来したと判断される場合は、必要に応じて制限を強化し、まん延防止に取り組む必要がある。

- これまで、専門員会議では、新型コロナウイルス感染症の爆発的増加をできるだけ抑え、後ろにずらすことにより、医療提供体制に見合うレベルに感染需要を抑える目的で提言等を発信してきた。
- 今後も、新型コロナウイルス感染症が無くなるわけではない。また、対策を解除することで、再度、感染症のまん延が生じる可能性が十分ある。広島県における3月から5月にかけての新型コロナウイルス感染症のまん延第一波では、感染状況に応じた受け入れ病床の迅速な確保など関係者の柔軟な連携により県民の健康を守る対処が実現された。引き続き、第一波の対応経験をもとに速やかに体制の強化を図る必要がある。この体制強化の中には、県民の理解しやすさや、感染者・医療福祉関係者やその家族を誹謗・中傷差別から守ることに配慮した情報発信のあり方にも留意する必要がある。